

大町市下水道事業経営戦略の改定について【概要版】

1 改定の目的

下水道事業は、少子高齢化や節水意識の向上による有収水量の減少や、施設の老朽化による施設の更新等への対応が課題となっており、事業を取巻く経営環境は厳しさを増しています。

経営戦略は、安定的に下水道事業を継続していくために平成28年度に策定しました。この経営戦略は、社会情勢や経営環境の変化に合わせて見直す必要があるため、改定することといたしました。

計画期間は、令和7年度から令和16年度までの10年間とします。

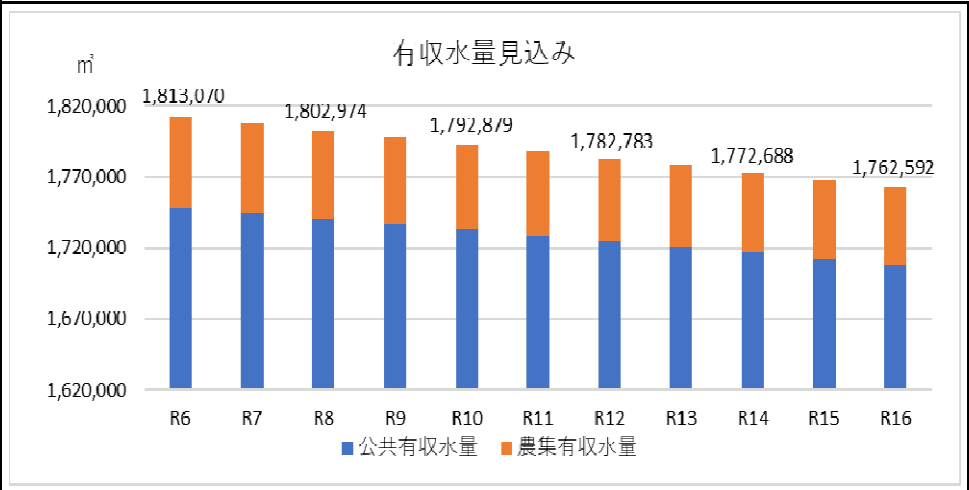
2 下水道事業の現状

令和5年度末の下水道の普及率は、72.3%で、他の会計で実施されている農業集落排水施設と合併処理浄化槽などを合わせると、大町市全体の下水道普及率は94.5%となります。

下水道の水洗化人口は、令和5年度末で13,988人、水洗化率は75.9%で前年度に比べて0.1ポイントの微増にとどまっています。未接続世帯が下水道に接続できない主な理由は、経済的困難、高齢化や家屋の老朽化などによるもので、使用料の増収は見込めない状況にあります。

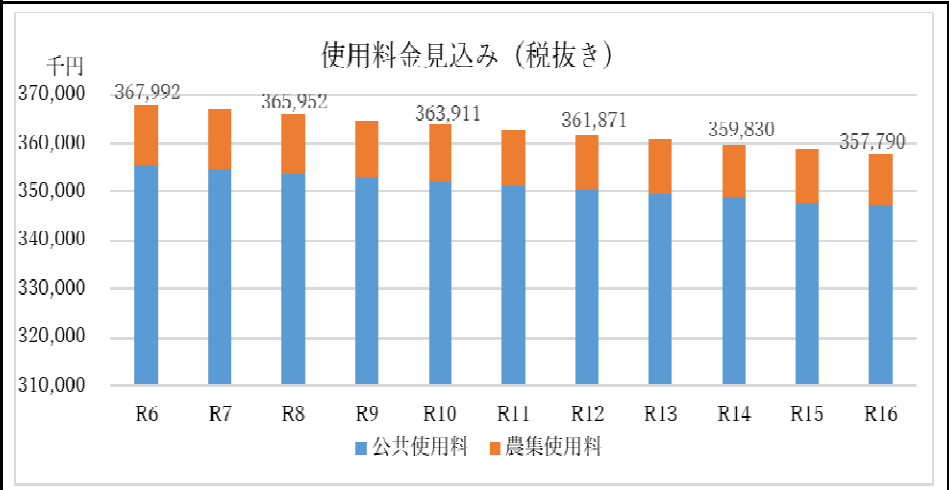
3 事業予測

(1) 有収水量（単位：m³）



有収水量は、人口減少と水洗トイレ等の節水型機器普及により減少傾向が続くと予測します。ただし、特環は新規工場進出等により微増すると予測しています。

(2) 使用料金収入（単位：千円）



経費回収率は、100%以上を維持していますが、将来の経営見通しでは、下水道使用料等の料金収入は減少していくと見込まれ、下水道使用料金等の見直しが必要になると想定されます。

4 経営方針

当市の下水道事業は、平成8年度の供用開始以降、公衆衛生の向上と河川等の公共用水域の水質改善に大きな役割を果たしてきました。しかし、人口減少や水洗トイレ等の節水型機器の普及等により、有収水量は今後も減少していくことに加え、施設の老朽化など、事業を取り巻く環境は一層厳しいものとなっていくことが予測されます。

このことから、経営方針として、「大町市第5次総合計画」に定める「下水道の整備と水洗化の促進」を基に、施設の能率的かつ適切な維持管理とともに、適正な収支構造に基づく経営の健全化に努めてまいります。

5 投資・財政計画

- (1) 投資について
下水道の水洗化率は、年々少しずつ上昇しており、令和5年度末では75.9%となっています。今後も普及啓発活動を継続し、下水道への接続を促進し水洗化率の向上を目指します。また、策定したストックマネジメント計画に基づき、費用を平準化しつつ、施設等の改築更新や管路の調査を進めます。
- (2) 財源について
人口減少に伴い使用料収入が減少し、維持管理費が増加する状況が見込まれる状況において、健全経営を維持していきます。

●数値目標（投資について）

目標項目	R5年度実績	R11年度目標	R16年度目標
水洗化率※1	75.9%	76.2%	80.0%
水洗化率※2	90.2%	91.5%	93.0%
水洗化率※3	81.2%	83.0%	84.5%

※1 公共下水道事業の水洗化率
※2 農集（小規模含む）事業の水洗化率
※3 下水道事業（農集、浄化槽含む大町市全体）の水洗化率

●数値目標（財源について）

目標項目	R4実績	目標
経常収支比率	116.80%	100.0%（毎年度） ※下水道事業（公共・特環・農集・小規模）の経常収支比率
経費回収率	143.80%	100.0%（毎年度） ※下水道事業（公共・特環・農集・小規模）の経常収支比率

●公共：収支計画

（単位：百万円）

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
収益的収入	1,051	1,022	1,013	985	955	950	947	974	970	983	1,004	1,028	1,058
収益的支出	917	902	885	864	840	840	844	878	886	903	933	962	1,000
損益	134	120	128	121	115	110	103	96	84	80	71	66	58
資本的収入	300	347	491	368	527	546	1,024	605	643	871	790	988	1,249
資本的支出	809	823	729	722	837	811	1,401	938	1,007	1,248	1,143	1,298	1,516
資本的収支不足額	509	476	238	354	310	265	377	333	364	377	353	310	267

●農集：収支計画

（単位：百万円）

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
収益的収入	116	114	107	102	93	91	90	90	89	88	87	87	86
収益的支出	83	85	80	80	80	80	80	83	86	85	85	85	85
損益	33	29	27	22	13	11	10	7	3	3	2	2	1
資本的収入	12	12	12	43	54	16	79	52	3	3	3	3	3
資本的支出	69	65	72	76	82	29	90	58	5	5	6	6	9
資本的収支不足額	57	53	60	33	28	13	11	6	2	2	3	3	6

※資本的収支不足額は、未使用補てん財源を充当する。

6 今後の課題等

- (1) 施設整備計画・経営計画による取組み
老朽化施設の増大に伴う改築需要に適切に対応し、計画的な点検・調査及び修繕・改築を行い、持続的な下水道機能の確保とライフサイクルコストの低減を図ることが重要となります。
経営面においては、高齢化や人口減少が更に進むことで、水洗化率の低下や有収水量の減少が見込まれることから、段階的な収支計画の見直しも必要となります。下水道への接続促進や水洗化人口の増加に向けた積極的な経営努力を徹底していくことが重要となります。
- (2) 今後の投資について
常盤処理区については、松川村内の処理場（松川浄水苑）において共同処理を行っています。今後、近隣の事業体とともに、下水道汚泥や処理場の広域化や維持管理の共同化などについて調査・研究を重ね、より効率的かつ安定的な事業運営に向けた検討を進めます。
各事業においてSM全体計画の策定や見直しを行い、施設の持続的な機能確保やライフサイクルコストの低減に努めるとともに、将来必要となる経費について中長期的な視点から投資の平準化に向けた検討を進めます。